

苫前町観光ビジョン



©青木和雄

2019年 6月

目 次

第1章 観光振興ビジョン策定の趣旨と背景	
1 国内の情勢	1
2 道内の情勢	1
3 苫前町の現状と課題	1
第2章 苫前町観光ビジョンの基本的な考え方	
1 観光ビジョンの位置づけ	2
2 観光ビジョンの期間	2
第3章 苫前町が有する観光施設及び観光資源の現状と課題	
1 観光施設の現状と課題	3
(1) 新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」）	3
(2) とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ	4
(3) とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場	4
(4) とままえ夕陽ヶ丘未来港公園	5
(5) 夫婦“愛の鐘”	6
(6) 三毛別熊事件復元地	6
(7) 苫前町郷土資料館及び考古資料館	7
2 観光資源の現状と課題	7
(1) 上平グリーンヒルウインドファーム	7
(2) 各種イベントの開催	8
① 北海道風車まつり	
② 古丹別緑ヶ丘公園さくら祭り	
③ 苫前・古丹別ふるさと祭り	
④ 北海道凧あげ大会及び苫前町凧あげ大会	
(3) 苫前町が有する特産品開発及び販売	9
(4) 苫前町イメージキャラクター「くまだとまお」	10
(5) 苫前町の宝の選定	10
(6) 観光客誘導看板	11
(7) 観光PR情報提供	12
(8) 留萌管内における観光事業連携	13
第4章 基本計画	
1 観光振興の取組みに係る基本項目	14
(1) 苫前ブランドの確立と観光メニューの充実	14
(2) 観光情報の提供とプロモーションの推進	14
(3) 観光資源の充実	14

(4) ホスピタリティの向上	14
2 苦前町まち・ひと・しごと創生に係る総合戦略目標	14
3 具体的な取り組みについて	15
(1) 観光施設の取り組み	15
① 新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」）	
② とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ	
③ とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場	
④ とままえ夕陽ヶ丘未来港公園	
⑤ 夫婦“愛の鐘”	
⑥ 三毛別罷事件復元地	
⑦ 苦前町郷土資料館及び考古資料館	
(2) 観光資源の取り組み	16
① 上平グリーンヒルウインドファーム	
② 各種イベントの開催	
③ 苦前町が有する特産品開発及び販売	
④ 苦前町イメージキャラクター「くまだとまお」	
⑤ 苦前町の宝の活用	
⑥ 観光客誘導看板	
(3) 観光PR情報提供	18
(4) 留萌管内における観光事業連携	18
(5) 観光プロモーションの取り組みについて	18
(6) 観光推進体制（町内各産業団体との連携含む）について	19
〈資料編〉	20

第1章 観光振興ビジョン策定の趣旨と背景

1 国内の情勢

近年、訪日外国人旅行者数は急速な拡大を遂げ、平成28年には2,404万人を数え、平成24年の836万人から3倍近くまで増加しています。また、これに伴い、訪日外国人旅行消費額は3兆7,476億円となり、平成24年の1兆846億円から約3.5倍に伸びており、観光は我が国の経済を支える産業へと成長しつつあります。

国は、従来の訪日外国人旅行者数2,000万人の目標達成が視野に入ってきたことを踏まえ、平成28年3月には、内閣総理大臣を議長とする「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」において、平成32年に訪日外国人旅行者数を4,000万人、訪日外国人旅行消費額を8兆円とし、さらには平成42年にそれぞれを6,000万人、15兆円とすること等も踏まえた、その実現のための施策を、「明日の日本を支える観光ビジョン」（以下「観光ビジョン」という。）としてとりまとめ、観光は「地方創生」への切り札であり、GDP600兆円達成への成長戦略の柱であるとし、国を挙げて、「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟が必要であることを示したところであります。

2 道内の情勢

北海道は、四季を彩る雄大な自然や温泉、豊富な食、さらには、アウトドアスポーツなどの様々な体験メニューなど、多彩な観光資源があり、これまでも国内外を問わず多くの観光客が訪れており、観光客がもたらす消費は、宿泊業・運輸業・旅行業など観光に直接関わる産業だけにとどまらず、商工業・製造業・農林水産業をはじめ地域の様々な産業へ幅広く波及し、観光が地域経済を牽引する総合産業として、北海道経済の活性化に大きく貢献することが期待されることから、北海道は観光振興に関する基本理念や道の施策の基本となる事項などを定めた「北海道観光のくにづくり条例」に基づき、道民や観光事業者、観光関係団体のほか、北海道をはじめとする行政機関など観光にかかわるすべての関係者が、連携・協働して観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するため、第4期「北海道観光のくにづくり行動計画」を平成30年3月に策定しています。

3 苫前町の現状と課題

社会経済の潮流は以前にも増して大きく変化しており、急速な少子・高齢化の進行、厳しさが増す国・地方の財政状況、景気の低迷と雇用環境の悪化、非正規雇用者の増加による所得格差の拡大など、私たちの生活と社会の姿を大きく変えています。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災や平成30年9月の北海道胆振東部地震による全道的な停電被害では、自然災害への危機管理意識を高めるとともに、現在に生きる私たちの生活スタイルそのものの見直しが迫られるなど、暮らしに大きな影響を与えています。

このような中で、本町は将来における町のあるべき姿と進むべき方向についての指針となる基本計画として「第5次苫前町総合振興計画」を平成28年3月に策定して

います。

この中で、観光振興においては、宿泊、運輸、飲食・小売、その他のサービス業、更には、製造業や農林水産業など幅広い産業に波及する裾野の広い総合産業として本町の経済を支えており、町民と行政が一体となって、観光振興に取り組んでおりますが、自然や歴史、文化、食など本町の優れた資源をさらに磨き上げ、新たな魅力を負荷していくことにより、苫前ブランドを確立し発信していくことが求められています。

また、観光宣伝や観光案内については、あらゆる機会を通じて誘致宣伝に努め、町民のホスピタリティ意識の高揚を図り、観光ボランティアの人材育成に努めていく必要があります。

また、観光資源については、風力発電や温泉宿泊施設「とままえ温泉ふわっと」を拠点とした交流促進ゾーンの推進が図られ、四季を通じた多彩なイベントが開催されていますが、観光客の満足度を高め、地域に波及効果がもたらされる質の高い滞在型観光メニューの充実が求められています。

この現状に即し、本町の観光振興において多様な地域資源を活用するとともに、その観光的価値を高めながら、地域性あふれる観光地づくりやイベントの開催の取り組みを進め、豊かな自然を活かすなかで、本町の観光の核である「観光施設」や「観光資源（食や苫前町の宝）」を活用し、町内観光地への集客の流れを創出するとともに、北海道や近隣自治体とも連携しながら、入り込み客間口を広げ、交流人口の増加を図り、観光客が楽しめるサービスの増加・充実、そして、滞留時間の延長等、地域経済効果の拡大を推進し、観光産業の育成並びに移住定住の促進に繋げることが求められています。

このため、観光プロモーションの推進など誘致宣伝活動の強化を図るとともに「風のまち」としての観光客の受入体制や観光資源の充実に加え、総合的な観光振興ビジョンの構築が必要となっております。

第2章 苫前町観光ビジョンの基本的な考え方

1 観光ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、第5次苫前町総合振興計画の基本構想『笑顔が未来に広がる躍動感あふれるまち』のうち「活気あふれるにぎわいのまちづくり」における観光の振興分野並びに、「苫前町まち・ひと・しごと創生総合戦略」における「苫前ブランドを活用した選ばれる地域創造戦略」の目標を達成するための観光振興計画として位置づけるものとします。

2 観光ビジョンの期間

本ビジョンの期間は、第5次苫前町総合振興計画の基本構想の終了年次までとし、2019年度から2025年度までの6ヶ年とします。

第3章 苫前町が有する観光施設及び観光資源の現状と課題

1 観光施設の現状と課題

(1) 苫前町新日本海地域交流センター

(とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」)

苫前町新日本海地域交流センターは、シーフロンパーク拠点施設基本構想（平成10年2月）に基づき平成12年に完成し、同年5月にオープンしたところであります。

運営管理は、開設当初では第三セクターである株式会社苫前町振興公社への管理委託にて実施し、温泉を利用した入浴・宿泊・食事サービスの提供を行ったが、住民サービスの向上と管理運営経費の削減を図るため、平成18年度より指定管理者制度を導入したところであります。



平成21年7月からは、株式会社苫前町振興公社の指定管理解除に伴い、住民・利用者ニーズの多様化に即し、民間事業者の有するノウハウを施設管理に活用すべく、大新東(株)が指定管理者として管理運営を行っています。

また、当施設は平成18年8月に道の駅「風Wとままえ」として登録し、同年11月より道の駅としての供用を開始し、24時間トイレの開放や道の駅情報の発信を行っています。

宿泊者数は、開設時5年間は1万人を超えていたが、平成24年度以降は8千人台で推移しています。日帰温泉利用者は、平成23年度には年間パスポート利用券などの取り組みによる利用客増となり8万人を超えたが、その大半は地元利用客であり、人口減少とともに徐々に減少し、平成30年度では6万9千人台となっています。なお、レストラン利用客は、利用者ニーズに即した提供メニューの見直しを定期的に行い、好評を得ており、平成26年度以降5万9千人台を維持し、平成30年度では6万4千人に達しております。

本施設は、苫前町の観光振興の拠点であり、宿泊・温泉・食事を含む観光サービス提供並びに地元住民の温泉入浴や食事を伴う憩いの場としても必要不可欠な施設となっています。

今後、国内の観光人口は人口減少とともに縮小することが予想され、国内ではインバウンド対策による外国人観光客の誘客が進められることから、本施設においても多言語対応表示や案内、職員研修などその対応策について検討が必要となっております。

施設改修については、建設から18年が経過し、各種設備の経年劣化などによる補修に強いられ営業に支障を来すこともあり、客室においては家族旅行ニーズに対応した和室タイプは、旅行客の少人数化によりその稼働率が縮小し、営業に大きく影響を与えている状況から、大規模改修時には個人客の受入を拡大する改修検討とともに、

健康増進法の一部改正における受動喫煙対策としての喫煙専用室の設置、「道の駅」機能の拡充として子育て支援として授乳室(個室化)の設置、障害者や子育て支援における専用駐車場への屋根設置などが求められており、その対策検討が必要と思われます。

また、道の駅としての情報発信機能を活用し、地元農産物や海産物を活用した特産品販売やファストフード開発・提供を行うなど、通過型観光客の滞在に繋がるメニュー開発が望まれます。

(2) とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ

とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチは、苫前町が進める大型地域プロジェクト「シーフロンパークとままえ整備構想」に基づき、他町村の海水浴場との差別化を図るため、中国海南島から白砂1,000立米を輸入し、これまでの海水浴場をリニューアルにより平成8年オープンしたところであります。



国外から輸入した白砂が好評を博し、平成8年リニューアル当時は5万人の入り込み数であったがその後は減少し、平成23年の1万4千人を最後に1万人台を割り、その後も観光客ニーズの多様化により減少。海水浴客は天候に大きく左右されるものの現在では6千人前後にて推移しているものの、平成30年度においては5千人を下回っています。

ホワイトビーチの開設期間は、例年7月10日前後から8月20日前後の40日間程度となっており、有料シャワー設備を完備し、開設期間の管理運営を苫前町高齢者事業団へ委託し、土日祝祭日等利用者の増加が見込まれる日には車両警備員を配置し、遊泳事故対策としてライフセーバーを常駐させています。

また、飲食提供サービスとしては、売店2店舗及び管理棟店舗「ココカピウ」の飲食店にて地場産品メニューやファストフードが提供されています。

しかしながら、リニューアル当初に設置していた浮島等における遊具施設など破損撤去となって以降、遊具設備がなく利用者のリピーターを取り込む環境が薄れ、観光交流人口の減少や利用者ニーズの変化により、入り込み数は、今後さらに減少することが想定されるため、「浜辺遊び」をキーワードとする砂浜を利用した体験メニューの検討が必要であります。

(3) とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場

とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場は、「シーフロンパークとままえ整備構想」に基づき、ホワイトビーチオープンと同時期



の平成8年7月に開設し、道内外からの新規入り込み客の増加が見られ、札幌圏及び旭川圏を中心とした都市部の愛好者が家族連れで、ホワイトビーチやとままえ温泉ふわたの利用と連動した滞在型観光の提供を可能としています。

設備は、流し台及び電源を完備したオートキャンプサイトAが21区画、車両乗り入れ区画のみを配置したオートキャンプサイトBが50区画、テント設営のみのフリーテントサイト10区画を有し、管理棟には有料のシャワー及びコインランドリー（洗濯機・乾燥機）設備を完備しています。

利用者は平成12年には1万人を超えたが、その後年々減少し、現在では年間4千人前後で推移していたものの平成30年においては、施設改修による利用制限や繁忙期（7月～8月）の天候不順により3千5百人を下回ったところであります。

しかしながら、利用者減少の要因には、全道各地におけるグランピングブームなどキャンピングニーズの変化によるものも考えられ、手ぶらでキャンプをできるなど利用者ニーズに即した提供サービス対応が望まれます。

また、キャンプ場設備は、オートキャンプサイトAの炊事設備及び庭園灯の更新を平成30年度にて更新したところであるが、トイレ設備については洋式化（洗浄機能付）ニーズへの対応が求められています。

（４）とままえ夕陽ヶ丘未来港公園

未来港公園は、苫前地区漁港環境整備事業により平成17年度完成し、供用開始されおり、管理棟（トイレ・炊事場）や多目的広場、交流広場、ビーチバレー広場、親水広場を有し、乗用車196台・バス5台分の駐車場を確保したイベント交流広場としての活用がなされています。

イベント開催については、開設時において第2回北海道風車まつりが開催され、以降毎年継続開催されており、海水浴場（開設）期間においてキャンプ利用ニーズに応え、キャンプ利用者の受入を行っています。

北海道風車まつりは、平成30年度において開催15回を数え、エビ籠オーナーイベントの人気コーナーもあり、現在8,000人程度の入り込み数となっており、駐車場の不足から交流広場や緑地スペースの一部開放を行っているが、十分な駐車スペースが確保できず、来場者の入れ替わりを持つ車両の待機状態が発生することもあり、更なるイベント集客を検討する場合、駐車場不足が大きな課題となっています。



(5) 夫婦“愛の鐘”

上平地区シーサイド（十軒町）の高台に昭和57年展望台を兼ねた「夫婦“愛の鐘”」が設置され、ハートのモニュメントの中心に鐘を下げ、日本海に浮かぶ天売島と焼尻島を夫婦島と見立て、夕日を望む景観は、これまで多くの観光客を魅了しています。



また、この鐘を鳴らすと家庭円満・子孫繁栄の御利益があるされ、山間部（東側）には上平グリーンヒルウインドファームが望まれ、隠れた観光スポットとなっています。

しかしながら、高台の設置場所までの遊歩道（階段）は木柵であったが、経年腐食により破損が激しく、観光客の安全対策に支障を及ぼしており、現在は、余儀なく閉鎖している状況にあります。

閉鎖後においても度々、問合せがあるなど隠れた観光スポットとして知名度は有しており、通過型観光の足止めとなる施設への有効活用は可能と考えられることから、日常の維持管理を可能とする新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと）テラスに移設することにより、道の駅「風Wとままえ」への誘導につなげ、互いの施設の知名度を高め、夫婦愛の観光スポットとして新たな商品開発を可能とする取り組みが必要であります。

(6) 三毛別熊事件復元地

大正4年（1915年）12月、町内三溪で発生した熊事件の史実をもとに復元したもので、同地は古丹別市街地から約19キロメートルの山奥に位置し、道道苫前小平線の延長上に配置されています。



平成2年の復元住居関係に続き、翌年、熊のモニュメントを設置したことにより、道内外からの観光客がグループなどで訪れ、開拓時の様子や野生生物の生息している雰囲気を感じ取る空間として人気が高いことが伺えたが、来場者数の集約（確認）方法が見当たらず把握していなかったが、平成30年度より記帳名簿を備え付けたところ約2,000人の来場者を数え、記帳いただけない方の推計（3分の1）も含め、約3,000人程度の来場者はあるものと思われる。

今後とも、苫前町の開拓の歴史の伝承と犠牲となった方々への慰霊と感謝の気持ちを後生に伝える施設として、復元住居及び熊モニュメント等の維持管理していくことが必要であります。

(7) 苫前町郷土資料館及び考古資料館

苫前町郷土資料館は、昭和3年に建設された旧役場庁舎で、当時の建築物としては非常にモダンな洋風施設であったことから、この施設を保存・展示及び郷土資料館としての利活用を図るため改築を行い、昭和59年3月にオープンしたところでありま



主な展示テーマは獣害史上最大と言われる「三毛別罨事件」をメインテーマに、「とままえの自然」「とままえの農林漁業」「とままえの海」など開拓当時から苫前町発展に関わる生活・生産用具などが展示されています。

また、考古資料館では、昭和61年度～昭和62年度において擦文時代の「香川3線遺跡」「香川6線遺跡」の発掘調査が行われ、概ね2万点にのぼる貴重な資料が出土したことから、

これらの資料とともに、旧石器文化時代・縄文文化期・続縄文文化期・擦文文化期（オホツク文化期）・アイヌ文化期までの解説展示を行っています。

入館者数は、平成21年には3千人ほどであったが、平成24年度以降4千人を上回り、平成25年度及び平成28年度には5千人を超えた状況となっています。

本資料館には、苫前町有形文化財にも指定されている大型の木櫃「修羅」や「須恵器」、苫前町の宝に指定されている日本最大級の罨の剥製「北海太郎」など、貴重な展示物が常設されています。

なお、北海道有形文化財に指定されている木造十一面観音立像は、役場にて専用ケースに収蔵されているものの、展示環境の確保の課題から常設展は行われていない状況にあります。

2 観光資源の現状と課題

(1) 上平グリーンヒルウインドファーム

上平共同利用模範牧場の敷地内において、民間2社による大型風力発電機39基が立ち並び全国風力発電の先進地としてこれまで多くの視察を受け入れるとともに、牧草地である緑の大地に白色の風車群が聳え立つロケーションは、芸能アイドルのプロモーションビデオ撮影等に活用され、周辺道路では写真撮影が行われるなど多くの観光客を魅了しています。



しかしながら、敷地内は牧場運営に係る管理が必要であり、むやみな観光客の立入は牧草への無断進入の恐れや衛生管理上における敷地内立入制限を設ける場合もあり、無制限の開放は困難な状況にあります。

このため、本町での滞在型観光への観光資源として活用を図るためには、牧場敷地内への進入を制限できる旧グリーンヒルキャンプ場敷地内における展望施設が必要と思われる。

なお、風車群における風力発電機は、大型化による風力発電機の更新が計画されており、設置基数の減少が見込まれることから、その景観についても変容することが想定されるため、更新内容を注視したうえでの検討が必要となります。

(2) 各種イベントの開催

① 北海道風車まつり

北海道風車まつりは、風車で「風のかおるまち」イメージを活かし、花風車を会場に設置する町民参加型のイベントとして、苫前町の特産品を広くPRするため平成16年度より開催。

平成21年度からは、地元甘エビを活用したエビ簗オーナーイベントも盛り込まれ、風車まつりのメインイベントとして定着し、全道・全国的な知名度を誇るまでになっています。

また、知名度のある演歌歌手の招聘や平成29年度からは苫前町イメージキャラクターを活用したコーナーを設け、子どもから高齢者まで幅広いイベントニーズに対応したイベントとして、町内外からの入り込みも多く、8千人程度の入り込みとなっています。

会場は、とままえ夕陽ヶ丘未来港公園において開催し、駐車場は一部緑地も開放しているが、常に満車状態で有り、これ以上の入り込み数を見込むためには新たな駐車場の確保が必要となるが、会場周辺には適当なスペースを確保できない状況にあります。

また、特産品を含む販売ブースは、飲食15店舗、物販3店舗の18店舗店舗となっており、販売飲食物も例年固定化されてきており、新たな目玉となる飲食物の招聘等の検討を要します。

② 古丹別緑ヶ丘公園さくら祭り

古丹別緑ヶ丘公園さくらまつりは、開道100年、苫前町制施行20年を記念して昭和43年に整備された古丹別緑ヶ丘公園において、昭和46年から開催され、先人から受け継いだ桜の名勝としての価値を再確認し、次の世代へ継承するとともに、町内会を中心とした各種団体の参画により、地域住民による手作りの「ふるさと苫前」



を思い描かれるイベントであります。

また、イベント当日には管内各種団体や町の関係機関関係者との交流の場ともなり、500人程度の入り込み数となっているとともに、イベント期間中の公園入り込み数は1000人を数えています。

③ 苫前・古丹別ふるさと祭り

苫前・古丹別両地区における「ふるさと祭り」は、帰省者が多く訪れるお盆時期の「ふるさと祭り」を行うことで、盆踊りや各種イベント、特産品等の露店飲食など、その地域性を活かした交流の場において、地域の連帯感や相互理解を深め、町外転出者との再会も含め、ふるさと「とままえ」の再認識を図れるまつりとなっています。

④ 北海道凧あげ大会及び苫前町凧あげ大会

苫前町凧あげ大会は、屋内に閉じこもりがちな冬期間において、時折強風を伴うやっかいな北風を利用し、屋外での凧あげを楽しもうと町内有志者の協力のもと昭和48年度より地域イベントとして開催され、町内の子どもたちや凧あげ愛好家たちに親しまれてきています。

また、平成4年度からは、その規模を全道に広げ、留萌管内や友好町三重県桑名市（長島町）からの参加により北海道凧あげ大会として開催し、凧あげ競技の他、特産品販売やステージショーを加えた苫前町の冬の風物詩として、広く知られてきたところであり、大小200基もの凧が一斉に舞い上がり、親子や児童生徒、職域団体等の300名程度の参加があり、苫前町凧あげ大会としては開催47回を数え、歴史ある大会となっています。

(3) 苫前町が有する特産品開発及び販売

本町における特産品は、一次産業である農産物や海産物とその加工品が主体であり、農産物においては、米・小麦・豆類・メロン・ミニトマト・かぼちゃ・スイートコーンと多種にわたり、加工品としては、苫前町農協での潮風うどん、とままえ風あまざけや（有）無限樹でのミニトマトジュース、上田ファームでのかぼちゃ団子など徐々に特産品開発が進められてきている状況にあります。

一方、海産物においては、ホタテ・エビ・イカ・タコ・カレイ・ナマコ・ウニ・昆布など魚種等も豊富で有り、加工品としては北るもい漁業協同組合苫前支所や（株）丸や岡田商店、星野水産、瀬川水産などによる各種珍味や糠にしん、身欠きニシン、味付け数の子、煮蛸、酢蛸がある他、新たにカスベのベーコンや塩麴にしんなどの新商品も加わっています。

しかしながら、その海産物を中心とする特産品のほとんどが冷凍冷蔵食材であり、観光資源となり得る地場でのお土産品としての流通は薄く、常温でのお土産品としての活用が可能な商品開発が望まれるところであり、苫前ブランドを確立し、苫前産食材を活用した特産品の開発及び販路拡大する活動に対し支援が望まれます。

また、道内都市部における特産品PRとして、観光協会を主体として「サッポロビール道産子感謝DAY」や「旭川食べマルシェ」、「冬のるもい大物産展 in チカホ」への出店を行い、商工会や各企業等の協力をいただきながら、特産品の販売を実施しており、都市部来場者への大きなPR効果があり、特産品の販路拡大に向けての貴重な場となっていることから、苫前ブランド・6次産業化チャレンジ支援事業の拡大を含め継続した取り組みが望まれます。

(4) 苫前町イメージキャラクター「くまだとまお」

「くまだとまお」の活動は、苫前町のイメージPR活動を行うことであり、各種町内行事やイベントなど出動要請により子供から高齢者まで幅広い年齢層との交流を図り、各種イベントを盛り上げるとともに、道内での各種イベントや特産品販売への参加により、苫前町のイメージアップを行っているところであります。



しかしながら、キャラクター活動を行う上で、活動ノウハウを理解した上での出動が必要なことから対応する職員が特定され、他の業務との兼務活動となるため、その活動範囲は限定されるものであります。

これまでの活動による認知度は、2018年全国ゆるキャラグランプリ投票にて、206位になるなど微増ではあるが増えてきている状況であるが、「くまだとまお」のPRを図ることで苫前町のイメージアップを図る相乗効果が見込まれるため、更なる活動展開を拡大するためには、出動体制の強化が必要であります。

また、「くまだとまお」のPRを図るためには、キャラクターグッズの開発・展開を図ることで、その活動費用の一部を捻出することが可能と思われるため、子ども対象及びその親子をターゲットにしたグッズ商品開発が課題であります。

(5) 苫前町の宝の選定

町内外から募集した「苫前町の宝」候補の中から選定された28点について、町のホームページにて紹介しており、苫前町の歴史文化を知るうえで希少価値の高いもや観光資源としての活用が可能なものもあり、観光客の誘客にどう繋げていくか課題となっています。

- ① 岩見の一本松（岩見地区）
- ② エゾエンゴサク群生地（金刀比羅神社（香川）、九重神社（九重）等）
- ③ チェリーロード（古丹別地区：町道古丹別西2条線）
- ④ 金刀比羅（ことひら）神社の4本足の大鳥居（香川地区）

- ⑤ 大型の木櫓「修羅」(苫前町郷土資料館)
- ⑥ 吉村昭の短編小説「銃を置く」(苫前町郷土資料館)
- ⑦ 苫前町有形文化財「須恵器」(苫前町考古資料館)
- ⑧ 日本で最大級の罌「北海太郎」(苫前町郷土資料館)
- ⑨ ノンフィクション小説「罌嵐」の原稿・罌事件「証言の手紙」(苫前町郷土資料館)
- ⑩ 庄内藩士石川小兵衛と水稻試作成功者藤田万助の墓(香川地区)
- ⑪ アイヌ民族関連資料(苫前町考古資料館)
- ⑫ 擦文住居を手づくり復元した「ミニチュア竪穴住居」(苫前町考古資料館)
- ⑬ ダブルデッキ・進化する漁港(苫前漁港)
- ⑭ 小田観螢とその関連資料(苫前町公民館・町内石碑)
- ⑮ 木造十一面観音立像(苫前町役場)
- ⑯ 苫前神社の灯籠(栖原店奉納:こま犬)(苫前神社)
- ⑰ 苫前町の風車群(上平グリーンヒルウィンドファーム・風来望)(上平・豊浦地区)
- ⑱ とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ(栄浜地区)
- ⑲ 苫前町の祭(古丹別・苫前ふるさと祭り、苫前町凧あげ大会)
- ⑳ 古丹別緑ヶ丘公園(桜・さくらまつり・スキー場からの景色)(古丹別地区)
- ㉑ 苫前町の夕日(下町の坂、眉島と夕日・とままえ温泉ふわっと等町内一円)
- ㉒ 霧立峠(霧立地区)
- ㉓ 苫前町の歴史的建造物(農協倉庫群、三溪ダム、旧役場庁舎、八線沢ダム)
- ㉔ 苫前町の歴史書籍(郷土史「郷土の調」・ふるさと散歩・ふるさと歴史マップ・昭和30年代の街並み地図:苫前町郷土資料館収蔵)
- ㉕ とままえ潮風うどん(苫前町農業協同組合)
- ㉖ 苫前産のもの、苫前産という言葉
- ㉗ 罌のモニュメント「とままえだべアー」(苫前町役場)
- ㉘ 長泉寺の藤の樹(力昼地区)

(6) 観光客誘導看板

① 役場前罌(ひぐま)モニュメント

昭和63年(1988年)に三毛別罌事件を逆手にとり、町おこしのシンボルとして役場前の駐車場内に建設された。夏場の観光シーズンには、通行ライダーたちの目にとまり撮影ポイントとなっています。

② 観光案内等看板

町内における観光案内看板は、とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ駐車場に設置されている観光案内のみとなっており、表示内容の破損等によりPR機能が低下していることから、最新の観光情報を含め、更新が望まれます。

なお、上平観光案内看板(旧シーサイド入口)は表示板一部の破損があり、国道防雪柵の設置からドライバーの目に止まりづらく、PR効果は薄いものと判断し、撤去

が望ましいことから平成31年度（令和元年度）にて撤去することになっています。

③ 新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと）大型看板

平成22年6月北海道開発局の道路占用許可に基づき、字苫前473番地に大型看板の設置を行い、とままえ温泉ふわっとへの誘導を行っています。

④ ベアロード（三毛別釧事件復元地誘導）看板

三毛別釧事件復元地への誘導を図るため、国道239号線と道道1049号線の交点から三毛別釧事件復元地までの約1.9km区間において、残り1.5km（九重コミュにセンター前）、残り1.0km（字三溪：大川敏雄宅手前）、残り5km（字三溪：立石宅前倉庫壁）、残り2km（字三溪：利用組合倉庫付近）において復元地誘導看板を設置しているが、経年劣化における維持補修を定期的に行っています。

三毛別釧事件復元地の来場者は約3,000人程度と見込まれ、復元地は各種携帯通信機器電波エリア外の場所にあり、来場者への誘導看板は一定距離区間において必要であり、定期的な維持補修及び更新が必要であります。

（7）観光PR情報提供

本町におけるインターネットにおける観光情報の提供は、町のホームページにて各観光施設の紹介や各イベント時の広告、特産品販売店の紹介など掲載されていますが、十分な情報提供とは言いがたく掲載内容の見直しは必要な状況ではあるが、苫前町観光案内WEBサイトを別途立ち上げ、細かな観光情報を提供しており、インバウンド対策として英語表記への切り替えによる情報提供も可能としています。

また、観光PRサイトの活用において、留萌観光連盟による「るもい食楽歩」や日本観光振興協会による「観るナビ」への情報提供により、きめ細かな情報を提供が行われているとともに、とままえ温泉ふわっとの道の駅への登録により、道の駅公式ページにて「風Wとままえ」として紹介されています。

パンフレット作成による情報提供では、苫前町観光協会にて、「苫前町観光ガイドブック」、「とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場施設紹介パンフレット」、「三毛別釧事件復元地紹介パンフレット」を作成し、窓口及び郵送での配布提供、各種イベントでの配布に供しています。なお、「苫前町観光ガイドブック」はA4版サイズと大きく、イベント等の配布には小型化（ポケットサイズ）が望まれるところであり、掲載情報の充実も含め新たに作成しています。

各種インターネットサイトや各種パンフレットへの観光情報掲載については、最新の情報をいち早く掲載し、本町の魅力が伝わる工夫を継続することが望まれますが、幅広い観光ニーズへの情報提供には、インターネット情報だけでなく全国観光雑誌など媒体情報ニーズでの取り込みも必要であり、留萌管内各市町村と連携した誌面による広告掲載の検討も必要であります。

(8) 留萌管内における観光事業連携

観光客の誘客には、本町単独での取り組みには限界があることから、留萌観光連盟の取り組みとしてのWEBサイト「るもい食楽歩」への観光情報提供及び更新を行うなど留萌観光連盟事業への協力を図るとともに、留萌振興局が主催する西蝦夷再興協議会にて実施する各種観光PRプロモーション事業等への参画しています。

今後、観光広域連携組織としてのDMO設立協議への参加を図りながら、本町の観光受入資源の確保や新たな観光体験メニューの創出が求められています。

※観光施設入込数

施設名	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
とままえ温泉ふわっと計	117,964	139,426	165,268	151,641	153,792	159,355	155,346	156,705	151,578	160,519
宿泊者	7,072	8,957	9,264	8,483	8,369	8,837	8,835	9,194	8,697	8,784
日帰温泉利用	77,542	81,331	83,341	73,885	73,759	73,090	71,251	71,627	65,881	69,991
レストラン利用	33,350	49,138	55,533	52,482	54,145	59,891	59,016	59,519	59,514	64,573
売店利用			17,130	16,791	17,519	17,537	16,244	16,365	17,486	17,171
ななかまどの館計	8,780	7,135	7,269	7,330	6,204	5,753	4,853	4,909	3,851	2,396
宿泊者	1,903	1,563	1,622	2,575	2,143	2,654	2,298	2,867	2,389	2,396
公衆浴場利用	6,876	5,572	5,632	4,755	4,061	3,099	2,555	2,042	1,462	-
施設利用	1	0	15	0	-	-	-	-	-	-
NPOふれあいハウス								99	383	498
ホワイトビーチ	15,649	12,534	14,037	5,426	5,822	6,378	9,325	6,749	5,880	4,768
オートキャンプ場	3,532	4,369	3,724	4,102	4,240	2,598	3,881	3,970	4,109	3,484
未来港公園（キャンプ利用）	426	306	462	616	373	545	597	486	575	613
三毛別震事復元地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,939
B & G 海洋センター	4,659	4,558	4,223	5,148	4,609	4,310	4,603	3,537	4,093	3,439
古代の里（郷土資料館・考古資料館）	3,219	2,587	3,482	4,711	5,099	3,973	4,579	5,382	4,537	4,730
上平ウインドファーム	176	278	257	-	-	-	-	-	-	-
各イベント入込数	6,600	8,500	9,600	11,200	12,100	6,500	8,500	11,500	12,000	11,500
北海道凧あげ大会	2,500	2,500	2,500	3,000	3,000	2,500	2,500	2,500	2,300	2,500
北海道風車まつり	3,000	5,000	6,000	7,000	8,000	3,000	5,000	8,000	8,500	8,000
古丹別緑ヶ丘公園桜祭り期間	1,100	1,000	1,100	1,200	1,100	1,000	1,000	1,000	1,200	1,000
合 計	161,005	179,693	208,322	190,174	192,239	189,412	191,684	193,337	187,006	193,886

※三毛別震事復元地の入り込み数は、現地来訪者受付簿記載者のみの人数。（平成30年度より記帳簿実施）

※ななかまどの館公衆浴場平成30年2月1日利用休止（平成30年10月1日廃止）に伴い減となる。

第4章 基本計画

1 観光振興の取組みに係る基本項目

第5次苫前町総合振興計画～笑顔が未来に広がる 躍動感あるれるまち～における前期基本計画（平成28年度～平成32年度）における基本計画（1）の観光振興の取組みにより、以下のとおり設定します。

（1）苫前ブランドの確立と観光メニューの充実

「苫前町の宝」による苫前ブランドの確立に努めるとともに、苫前ブランドを活かした地域特産物の開発に努めます。また、地域の安全で新鮮な農水産物を利用した食をはじめ、学び・いやし・遊びなど多様なニーズに対応した観光メニューの充実に努めます。

（2）観光情報の提供とプロモーションの推進

多様な媒体を通じ効果的な情報発信や都市部での観光・物産展を開催し、観光情報の提供を推進します。また、観光協会をはじめとする関係団体と連携し、広域観光の充実にめざした観光プロモーションを推進します。

（3）観光資源の充実

既存資源の再整備を図るとともに、地域資源を生かした新たな観光資源の創出に努めるとともに、さまざまなイベントを開催して都市住民との交流を促進します。

（4）ホスピタリティの向上

観光客をもてなすホスピタリティ意識の醸成に努めるとともに、観光ボランティア団体や人材の育成に努めます。

2 苫前町まち・ひと・しごと創生に係る総合戦略目標

第5次苫前町総合振興計画を勘案しつつ、人口の減少と将来の展望を提示する「苫前町人口ビジョン」を踏まえて策定された「苫前町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年度～平成31年度）」における「苫前ブランドを活用した選ばれる地域創造戦略」での「観光産業の育成・支援」目標を達成するため、次の目標値を設定します。

K P I（重要業績評価指標）	基準値（2018年度）	目標値（2025年度）
観光施設入り込み数	193,886 人	207,000 人
宿泊者数	11,180 人	12,000 人
道の駅利用者数	160,519 人	170,000 人
交流イベント等参加者数	11,500 人	12,000 人
外国人観光客数	92 人	200 人

3 具体的な取り組みについて

(1) 観光施設の取り組み

① 新日本海地域交流センター(とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」)

道内での増大が見込まれる外国人観光客の誘客環境を整えるインバウンド対策として、多言語対応表示や観光案内所機能の充実を図るため、通訳機能を有する電子機器の整備や職員研修などにより、日本政府観光局（JNTO）が行う外国人観光案内所認定を目指すものとします。

施設整備においては、大規模改修時にて個人客の受入を拡大する改修や分煙対策による禁煙室整備、トイレの全面洋式化、乳児受入を可能とする授乳室の整備を行う他、各居室等における完全バリアフリー化による改修検討を要します。

また、道の駅としての情報発信機能を活用し、地元農産物や海産物を活用した特産品販売やファストフード開発・提供を行うなど、通過型観光客の滞在に繋がるメニュー開発を検討いたします。

② とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ

海水浴客の減少に歯止めを掛けるためには、白砂の保護並びに売店及びシャワー設備機能を維持するとともに、大きく広がった砂場での有効利用を図るため、遊具設備の設置を検討いたします。

また、建設当初にて設置されていた木製デッキの老朽化により撤去となったことから、デッキ段差への安全対策を実施いたします。

③ とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場

全道各地におけるグランピングブームなどキャンピングニーズの変化に対応する設備の導入など、手ぶらでキャンプできる利用者ニーズに即した提供サービスを検討いたします。

また、キャンプ場設備は、現在のサービス提供設備を維持するとともに、トイレの全面洋式化（洗浄機能付）を図るものといたします。

④ とままえ夕陽ヶ丘未来港公園

海水浴場（開設）期間におけるキャンプ利用ニーズに応え、キャンプ利用者の受入を継続するとともに、北海道風車まつりなど大型イベント開催を可能とする会場としては、駐車場の不足が大きな課題から、更なるイベント集客を図るためには、駐車場500台分の確保を必要とします。

⑤ 夫婦“愛の鐘”

現在、遊歩道（階段）や木柵は、腐食・破損が激しく、観光客の安全対策が確保できず、現設置場所での維持管理は困難であり、他の観光施設との連動性が乏しい状況から、通過型観光の足止めとなる施設への有効活用を考え、日常の維持管理を可能とす

る新日本海地域交流センター(とままえ温泉ふわっと)テラスに移設することにより、道の駅「風Wとままえ」への誘導につなげ、夫婦愛の観光スポットとして、絵馬・おみくじの販売など新たな商品開発を検討いたします。

また、とままえ温泉ふわっとでの結婚記念日宿泊者へのサービスメニューの創設や記念品の進呈など、夫婦愛・家族愛の聖地化を図ります。

なお、毎年6月の天売島及び焼尻島の間に夕日が沈む期間において、夫婦“愛の鐘”のハートリングから望む夕日を望むイベント化を図り、集客を図ります。

⑥ 三毛別震事件復元地

三毛別震事件復元跡地の入り込み者数は年間約3,000人が見込まれ、苫前町の開拓の歴史の伝承と犠牲となった方々への慰霊と感謝の気持ちを後生に伝える施設として、今後も復元住居及び震モニュメント等の維持管理を図ります。

⑦ 苫前町郷土資料館及び考古資料館

苫前町有形文化財にも指定されている大型の木櫃「修羅」や「須恵器」、苫前町の宝に指定されている日本最大級の震の剥製「北海太郎」など、貴重な展示物が常設されており、北海道有形文化財に指定されている木造十一面観音立像の常設展示が望まれます。

また、木造十一面観音立像の常設展示には、文化財保護の観点から展示環境の確保に大きな課題があり、保管設備の整備並びに常設展示にはレプリカの製作などの検討を要します。

(2) 観光資源の取り組み

① 上平グリーンヒルウインドファーム

本町での滞在型観光の観光資源としての活用を図るためには、旧グリーンヒルキャンプ場敷地内にて、牧場敷地内への進入を制限できる展望できる施設について、今後の風力発電機の更新が計画を注視したうえで検討いたします。

② 各種イベントの開催

北海道風車まつりは、エビ籠オーナーイベントが集客の目玉であり、知名度も定着していることから今後も継続開催が望まれるとともに、特産品等の販売においては町内出店の他、食のテーマを設けた町外出店者の招聘を図るなど、新たな観光ニーズの取り込みを図ることを目指すものであります。

また、地域に根ざした「古丹別緑ヶ丘公園さくら祭り」や苫前・古丹別両地区で行われる「ふるさと祭り」は、地域住民及びふるさと苫前を再確認できるイベントとして、継続開催を支援いたします。

北海道(苫前町)凧あげ大会は、苫前町の風物詩として町内外に浸透しているものの天候に大きく左右される状況にあります。苫前町の風土を活かしたイベントであ

り、今後も観光事業としての開催支援を行うものいたします。

③ 苦前町が有する特産品開発及び販売

本町の豊富な農産物及び海産物などを資源とし、常温でのお土産品の開発が望まれるところであり、苦前ブランド・6次産業化チャレンジ支援事業の活用も含め、苦前ブランドを活かした地域特産物の開発支援に努め、道内都市部における特産品PRとして観光協会を主体とし、「サッポロビール道産子感謝DAY」や「旭川食ベマルシェ」、「冬のるもい大物産展 in チカホ」などへの出店を行い、商工会や各企業等の協力を得ながら、特産品の販路拡大支援を行います。

また、苦前町イメージキャラクター「くまだとまお」を特産品パッケージへの有効活用を支援する取り組みを検討いたします。

④ 苦前町イメージキャラクター「くまだとまお」

「くまだとまお」のPRを図ることで、苦前町のイメージアップを図る相乗効果が見込まれるため、更なる活動展開を拡大するための出動体制の強化を行うため、ボランティアにおける人材育成及び確保を目指します。

また、「くまだとまお」のキャラクターグッズの開発・展開を推進することとし、親子をターゲットにした道の駅「風Wとままえ」での小規模交流イベントを企画し、とままえ温泉ふわっとへの集客に寄与することを目指します。

⑤ 苦前町の宝の活用

選定を行った28点における苦前町の宝紹介パンフレットを作成し、PRを図るとともに、町内外へ苦前町の歴史文化を知るうえで希少価値の高いものや観光資源としての活用が可能な景観・設備の活用を図るため、季節に応じた町内周遊コースを設定するとともに、観光ボランティアガイドの養成による学び・いやし・遊びなど多様なニーズに対応した体験型観光メニューの開発検討を行い、観光客の誘客を図るものいたします。

⑥ 観光客誘導看板

役場前熊（ひぐま）モニュメントは、特にライダー観光者の通過ポイントとして認知されており、定期的な点検補修を行うとともに、苦前町のシンボルモニュメントとして、今後も維持管理を行います。

とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ駐車場観光案内看板は、町内観光場所の唯一の案内として、その内容更新を検討いたします。

新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと）大型看板は、更新時においては、道の駅としてのPR効果やインバウンド対策における外国語表記も含め、更新を検討いたします。

三毛別熊事件復元跡地の入り込み者への誘導看板は、国道239号線の古丹別地点から約19kmと山奥地への誘導として、ベアロードとしての誘導看板は必要であり、定期的な維持補修及び更新を行うものいたします。

(3) 観光PR情報提供

観光情報の提供においては、町のホームページにて各観光施設の紹介や各イベント時の広告、特産品販売店の紹介など掲載しているが、十分な情報提供とは言いづらく、定期的な掲載内容の見直しは必要な状況であることから、苫前町観光案内WEBサイトを連携したインバウンド対策として英語表記への切り替えも含め、細かな観光情報を提供に努めるものいたします。

また、パンフレット作成による情報提供では、苫前町観光協会にて、「苫前町観光ガイドブック」、「とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場施設紹介パンフレット」、「三毛別震事件復元地紹介パンフレット」を作成しており、必要部数の確保並びに定期的な情報更新を行うものいたします。

なお、北海道観光振興機構や道の駅情報サイト等のインターネットサイトへのイベント情報提供や施設案内情報の掲載について、随時、最新情報となるよう更新することで本町の魅力が伝わる創意工夫を継続するとともに、全国観光雑誌における観光情報ニーズの取り込みも図るため、留萌管内各市町村と連携した誌面による広告掲載を行うものいたします。

(4) 留萌管内における観光事業連携

本町の観光客の誘客には、留萌管内各市町村との連携が重要であり、留萌観光連盟の取り組むWEBサイト「るもい食楽歩」への観光情報提供など留萌観光連盟事業への参画を図るとともに、留萌振興局が主催する西蝦夷再興協議会にて実施する各種観光PRプロモーション事業等への参加を継続いたします。

なお、留萌管内の観光振興は各市町村の事業連携を重視し、広域観光ルートの設定や各種プロモーションの実施など広域的な取り組みを推進するため、現在、西蝦夷再興協議会において留萌地域版DMOの設立について協議検討がなされており、今後の本町における観光推進体制に大きく影響を及ぼすことが想定されるため、本協議会への参画を図りながら、本町の観光振興との連携を図るよう努めます。

(5) 観光プロモーションの取り組みについて

本町の観光振興を図るためには、これまでの通過型観光から、本町の自然風土を活かした体験観光を推進し観光交流人口の増加を図ることで、滞在型観光への転換を図ることでの観光産業の創出・育成が必要であります。

この滞在型観光を進めるためには、各種観光施設や観光資源を活かしつつ、「苫前ならではの」食体験を含めた本町の主産業である農業や漁業、生活風土の体験メニューを提供し、人と人との交流を育む中で、特産品の消費拡大に繋げることで、観光産業の創出・育成し、サービス提供体制を整えることが求められます。

しかしながら、本町で完結できる観光プロモーションでは、様々な観光ニーズに応えるメニューの創出及びPRには限界があることから、当面は留萌管内の事業連携における広域観光ルートの設定や各種プロモーションへの参画を図ることで、本町の体験メニューの確立を目指し、交流人口の増加を図ります。

(6) 観光推進体制（町内各産業団体との連携含む）について

本町における観光推進体制は、各種イベントにおいて、風車まつり並びに凧あげ大会は地域住民の協働参画による実行委員会体制での行政担当部署がその事務局を担っている状況にあるが、官民協働による事業運営がなければ開催は困難であり、今後も同様の体制維持を必要とします。

また、観光協会は、推進母体となる町内各産業団体や地域組織の協力のもと行政担当部署がその事務局を担っている状況となり、主に観光PRを主眼とした観光パンフレットの作成・配布やご当地キャラクター「くまだとまお」の活動、札幌・旭川での特産品PRなどを展開しており、その財源の全額が町補助金となっておりますが、公的機関としての観光協会体制では収益事業の展開は難しく、その活動範囲が制限されている状況にあり、弾力的な観光ニーズに即した事業展開と地域産業の振興に繋げる役割を担う組織体制の構築について検討を要します。

現段階における観光協会の役割は、観光産業の創出並びに育成支援となるよう観光PRの実施並びに特産品PRの機会を確保し、地場製品の流通・販路拡大に繋げ、稼げる観光をめざし、交流人口の増加に寄与する中で、移住定住のきっかけづくりを提供するものとしたします。

資 料 編

1 観光施設の概要

(1) とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場

- センターハウス ～ 受付、管理人室、コインランドリー(3)、シャワー(3)
男子トイレ(小4、洋式1、和式3)、女子トイレ(洋式1、和式3)、身障者用トイレ(洋式1)
- サイト ～ オートキャンプサイトA 21区画(20A電源・炊事ユニット)
オートキャンプサイトB 50区画(全面芝生・車両乗入可)
フリーテントサイト 10区画(バイク・自転車・徒歩専用)
- 炊事棟 ～ 1棟(屋根付・夜間照明有)
- トイレ棟(オートキャンプサイトA内)
～ 1棟(男子トイレ:小2・和式2、女子トイレ:和式2)

(2) とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ

- 管理棟 ～ 管理人室、ココカピウ(飲食喫茶)、備品庫(3室)
- 売店棟 ～ 4棟(売店2、海水浴管理1、資材物置、トイレ和式1)
- シャワー室 ～ 男女別各4箇所
- 白砂場 ～ 1000m³
- 炊事場 ～ 1箇所
- さわやかトイレ ～ 男子トイレ(小4、洋式1、和式2)、
女子トイレ(洋式1、和式3)、
子供用トイレ(小1、和式1)
身障用トイレ(洋1)

(3) とままえ夕陽ヶ丘未来港公園

- 管理棟 ～ 管理人室、電気室、炊事場、フリーデッキ、
男子トイレ(小5・洋式1・和式1)
女子トイレ(洋式2、和式4)
身障者用トイレ(洋1)
- 多目的広場 ～ 芝生10, 575m²、庭園灯17基
- ビーチバレー広場 ～ 砂場バレーコート1面分
- 親水広場 ～ 3, 630m²
- 駐車場 ～ 乗用車196台・バス5台

(4) 三毛別震事件復元地

- 復元住居地 ～ 復元住居1棟(震モニュメント付き)、慰霊碑、熊穴、棧橋、
釣鐘、説明看板、小熊像

2 宿泊施設の概要

(1) 新日本海地域交流センター（とままえ温泉ふわっと：道の駅「風Wとままえ」）の施設概要

- 客室数 ～ 特別室(ツイン) 1室、和室(ロフト付) 7室、和室3室、洋室(ラージツイン) 4室、洋室(ツイン) 2室 計17室
- 浴場 ～ 男女別・露天風呂付・サウナ・リラックスルーム・休憩室あり
ナトリウム-塩化物強塩泉(高張性中性高温泉)
- レストラン ～ テーブル席・和室宴会場・ラウンジあり
- 研修設備 ～ 研修室4(洋室タイプ2、和室タイプ2)、会議室1
- 多目的ホール ～ 250人収用可能
- トイレ～ ～ 男子トイレ(小3、洋式1、和式1)、女子トイレ(洋式2、和式1)、身障用トイレ(1)
- 駐車場 ～ 大型車10台、小型車93台、身障者用6台
EV充電設備2台

施設利用者状況

利用者区分	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
宿泊者	9,264	8,483	8,369	8,837	8,835	9,194	8,697	8,784
日帰温泉利用	83,341	73,885	73,759	73,090	71,251	71,627	65,881	69,991
レストラン利用	55,533	52,482	54,145	59,891	59,016	59,519	59,514	64,573
売店利用	17,130	16,791	17,519	17,537	16,244	16,365	17,486	17,171
合計	165,268	151,641	153,792	159,355	155,346	156,705	151,578	160,519

(2) ななかまどの館の施設概要

- 客室数 ～ 和室4室、洋室(シングル) 15室、洋室(ツイン) 1室
- 浴場 ～ 男女別
- 食事 ～ テーブル席・和室宴会場
- 会議室 ～ 大広間(35畳) 1室
- トイレ ～ 1階(男子：小3、洋式2、女子：洋式3)
2階(男子：小3、洋式2、女子：洋式2)
- レストラン～宿泊者のみ

施設利用者状況

利用者区分	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
宿泊者	1,622	2,575	2,143	2,654	2,298	2,867	2,389	2,396
公衆浴場利用	5,632	4,755	4,061	3,099	2,555	2,042	1,462	-
施設利用	15	0	-	-	-	-	-	-
合計	7,269	7,330	6,204	5,753	4,853	4,909	3,851	2,396

※公衆浴場は平成30年2月1日より利用休止(平成30年10月1日廃止)

(3) 民間宿泊施設の概要

- ・民宿30ノット 洋室9室 (シングル1室、1～2名5室、2名2室、4名1室)
- ・高島旅館 和室6室
- ・梅屋旅館 和室12室

3 観光資源の概要

(1) 上平グリーンヒルウインドファーム

- 事業主体 株式会社 ユーラスエナジー苫前
- 発電設備 1000kW風力発電機 20基 (デンマーク ボーナス社製)
- 事業主体 株式会社 ジェイウインド
- 発電設備 1650kW風力発電機 14基 (デンマーク ベスタス社製)
- 1500kW風力発電機 5基 (ドイツ エネルコン社製)
- 総発電出力 5万600kW
- 対象面積 300ha (町営上平共同利用模範牧場)

(2) 各種イベントの開催状況

○北海道風車まつり

- 開催回数 15回 (初回：平成16年)
- 開催内容 以下のとおり
- 実施主体 北海道風車まつり実行委員会

実施年度	ステージショー				エビ籠オーナーイベント	その他
	歌謡音楽ステージ			子供向け		
平成16年度	第1回	城之内 早苗	コロムビア ローズ	木村前幸 (伝統音楽)	デカレンジャー	販売店 ・地元事業者等 体験コーナー ・ゆりかもめ乗船体験 ・建設重機等試乗体験 ・遊具ふわふわ ・各種アミューズ等 特産品抽選会 ・イベント通貨活用
平成17年度	第2回	ものまね (ダンシング谷村・ミラクルひかる・吉田みやあ・だいすけ)			マジレンジャー	
平成18年度	第3回	佳山 明生	SHINYA	ビバーチェ	ボウケンジャー	
平成19年度	第4回	五十嵐浩晃・香澄・三ツ橋けんじ			ゲキレンジャー	
平成20年度	第5回	香澄	留萌陸上自衛隊音楽隊			
平成21年度	第6回	JUNKO×NARIKO×AYA	パプファミリー (パフォーマンズ)		第1回	
平成22年度	第7回	北見 恭子	竹内獅子丸 (三味線)		第2回	
平成23年度	第8回	林 あさ美	くろまる	なでしこシスターズ	第3回	
平成24年度	第9回	角川 博	Rigell Farthest	歌麿呂(お笑い)	第4回	
平成25年度	第10回	鳥羽 一郎	ラフ・チケット(漫才)	ヒロ青山(ものまね)	第5回	
平成26年度	第11回	大月 みやこ	ワンダービーナス	フルーティー	第6回	
平成27年度	第12回	中村 美律子	Nene&Waka		第7回	
平成28年度	第13回	細川 たかし	Nene&Waka		第8回	
平成29年度	第14回	山川 豊	Nene&Waka	亙 哲兵(ものまね)	第9回	
平成30年度	第15回	新沼 健治	杜 このみ		第10回	

○古丹別緑ヶ丘公園さくらまつり

開催回数 47回（初回～昭和46年度）
 開催内容 歌謡ショー・カラオケ大会・パフォーマンスショー等
 その他 販売店出店・コンロ無償提供
 実施主体 古丹別緑ヶ丘公園桜祭り実行委員会

○苫前・古丹別ふるさと祭り

開催回数 苫前36回、古丹別42回
 開催内容 盆踊り・ゲーム大会・カラオケ・パフォーマンスショー・抽選会等
 その他 販売店出店
 実施主体 苫前ふるさとまつり実行委員会／古丹別ふるさとまつり実行委員会

○北海道風あげ大会

開催回数 苫前町風あげ大会 46回（初回～昭和48年度）
 北海道風あげ大会 27回（初回～平成4年度）
 開催内容 部門別風あげ競技及び表彰・パフォーマンスショー・抽選会・餅まき等
 その他 販売店出店
 実施主体 苫前町風あげ大会実行委員会

(3) 苫前町が有する特産品

○加工・冷蔵冷凍品

取扱事業所	品 目				
北るもい漁業協同組合	おいしいはっかく	かすべ唐揚げ	はたはた一夜干し	片貝付ホタテ貝	珍味各種
株式会社丸や岡田商店	塩数の子	味付数の子	身欠きニシン	とままえ練番屋物語 最中入りお吸い物	いくら醤油漬
	塩麴ニシン	甘エビ塩辛	ニシン切り込み	とばスライス	
瀬川水産	糠にしん(熊嵐)				
星野水産	煮蛸	酢蛸	昆布		
苫前町農業協同組合	潮風うどん	とままえ風甘酒	ゆめぴりか	ななつぼし	
有限会社 無限樹	ミニトマトジュース	いちごアイス			
上田ファーム	かぼちゃ団子	かぼちゃプリン			
有限会社 大川商店	大川ジンギスカン	激辛ホルモン			
山海幸	かすべのベーコン				

○農産物

苫前町農業協同組合	苫前産米	メロン	スイートコーン	かぼちゃ	ミニトマト
	インゲン	馬鈴薯			

○海産物

北るもい漁業協同組合	ボタンエビ	甘エビ	イカ	タコ	ナマコ
	ホタテ	ウニ	カレイ	ナメタ	鮭
	カジカ	ハッカク	昆布	ハタハタ	タラ

(4) 苫前町イメージキャラクター「くまだとまお」

留萌管内の他市町村で「ご当地キャラ」が誕生する中で、苫前町でも町をイメージでき、町を盛り上げることができる、かわいらしい「ゆるキャラ」を誕生させようと、平成28年に町内外へキャラクターと名前の募集を図り、231件の応募の中から選定委員会での24作品を選定し、町民による人気投票を行い、その結果、「くまだ とまお」のキャラクターデザインと名前が選ばれ、平成29年1月にて苫前町イメージキャラクターとして誕生しました。



(5) 観光客誘導看板 (写真)

① 役場前熊 (ひぐま) モニュメント



② ホワイトビーチ観光案内



③ とままえ温泉ふわっと大型看板



④ ベアロード看板 (残り15km)



⑤ ベアロード看板 (残り10km)



⑥ ベアロード看板 (残り5km)



⑦ベアロード看板（残り2km）



(6) 苫前町の宝の選定

町内外から募集した「苫前町の宝」候補の中から選定された28点は、以下のとおりです。

① 岩見の一本松

明治29年に、この地区に開拓者が入植する以前から生育しており推定樹齢は800年を超え、「岩見の一本松」の愛称で昔から住民に親しまれています。

昭和49年に北海道指定の記念保護樹木に、昭和55年には苫前町開拓100年を迎え記念物指定されています。

なお、私有地につき、立入には所有者の許可が必要となります。

② エゾエンゴサク群生地

町花であり町のシンボルでもあるエゾエンゴサクは、地域の歴史や自然・文化と関わりの深いものです。「とままえ」はアイヌ語のトマ・オマ・イ（エゾエンゴサクの・ある・ところ）が由来と言われています。

春には、香川地区にある金刀比羅神社、九重地区にある九重神社などでエゾエンゴサクの群生をみることができとても見事です。

③ チェリーロード(町道古丹別西2条線)

平成5年からフラワーランド・グリーンピアプロジェクト事業として、苫前町公民館前の町道西2条線は花壇整備や桜の植樹が行われました。

植樹から20年が経過し桜ロードとして親しまれており、桜の咲く5月上旬から中旬にかけては桜を見に来る町内外の人も多く訪れています。

④ 金刀比羅（ことひら）神社の4本足の大鳥居

苫前町香川地区には明治25年から香川県からの開拓民が相次ぎ、同地区に金刀比羅神社が建立されました。

平成16年に全面改装されたこの鳥居は、香川県からの移住者が多いことから同県琴

平町の金刀比羅神社の鳥居にならい、4本足の鳥居となりました。

北海道内でも4本足の鳥居は多くなく、本町開拓のシンボルの一つとして後世に伝えていくべきものです。

⑤ 大型の木橧（きぞり）「修羅」

大型の木橧を一般的に修羅などと言います。この修羅は、ナラ材で台木の全長が345cm、幅が30cmあります。

一般的には神社や寺院などを建設する際に、雪の凍る時期に古くから使われ「雪国第一の用具」と言われていますが、この修羅は鯨建網船用の材を山から切り出す際の運搬に使われていたもので、力昼地区で鯨漁が急速に発展した明治中期から昭和初期まで使われていたことが推測されます。

現在は郷土資料館に展示されており、道内でもこれだけの大きさの修羅は極めて珍しく、苫前町有形民俗文化財に指定されています。

⑥ 吉村昭の短編小説「銃を置く」

昭和61年2月1日に発行された小説新潮2創刊500号記念現代作家大全集に掲載された、作家「故 吉村昭氏」の短編小説です。

本町の熊撃ち名人「故 大川春義氏」をモチーフに描かれており、ハンターになる経緯や苫前熊事件など作家のまなざしからみた猟師の姿が描かれている苫前の史実とリンクした吉村文学の真髄とも言える作品です。

⑦ 苫前町有形文化財「須恵器」

大正13年に苫前町香川地区の香川遺跡で発見され、完形品で大きく、苫前町の豊国寺で寺宝として大切に保管されていましたが、昭和57年の郷土資料館開館に伴い豊国寺住職の計らいで一般展示されています。

平成20年1月に苫前町有形文化財に指定されたこの須恵器は、10世紀頃青森県五所川原窯で生産されたもので完全な形状を留めたものとしては、日本列島最北端のものであることから古代人の生活推移を理解するために欠くことのできない考古資料です。

⑧ 日本で最大級の熊「北海太郎」

この熊は、町内周辺の山に毎シーズン出没し、「北海太郎」のニックネームで呼ばれた幻の巨熊で、追跡8年、名人二代目ハンターコンビ（大川高義氏、辻優一氏）により、昭和55年5月羽幌町内築別シラカバ沢で射止められ、剥製保存し苫前町に寄贈されました。

体重は約500kg、身長243cmあり、日本最大級の熊の剥製です。

⑨ ノンフィクション小説「熊嵐」の原稿・熊事件「証言の手紙」

作家「故 吉村昭氏」の名作「熊嵐」は、あまりにも凄惨な事件であったことから執筆途中に一度は放棄し、苦悩の末に脱稿した作品です。

故 吉村昭氏は、苫前町の観光大使にもなっていたこともあり、原稿が苫前町に寄贈

されました。この原稿は、故 吉村昭 氏の自筆原稿というだけではなく前述した経緯があり、町にとっては素晴らしい大きな財産であります。

⑩ 庄内藩士石川小兵衛と水稻試作成功者藤田万助の墓

庄内藩士 石川小兵衛 氏は、トママイ陣屋の番頭格として文久元年に赴任し、翌年3月病死。文久三年に子息の石川惟一が建立しました。

※番頭格：平時は警備部門の内で最高の地位。

藤田万助 氏は、トママイ陣屋の建設にも協力し、初めての古丹別川原野における水稻試作成功者であり、北海道の稲作史上でも重要な意味をもつ方です。

この近代苦前史を語るうえで重要な二人の墓が古丹別川尻北岸にあります。

⑪ アイヌ民族関連資料

苦前町は、苦前の地名の由来が「トマオマイ」toma-oma-i（エゾエンゴサク・ある・ところ(場所)）とアイヌ語から由来していることからアイヌ民族と深い関係にあり、苦前町にはアイヌ民族の関連資料が多くあります。

苦前町考古資料館には、アイヌの人々が日常的に使っていた、鮭の皮でつくられた靴や、樹皮着物「アトゥシ」等が展示されており、どれも貴重な資料であります。

※この「アトゥシ」は、「第10回旭川国際バーサーズキー大会(現バーサーロペットジャパン)」にこの大会の本家であるスウェーデンのカール16世グスタフ国王を迎え開催されたときに、国王に先住民族の着物を特別に製作し着ていただいたものであります。

⑫ 擦分住居を手づくり復元した「ミニチュア竪穴住居」

昭和61～62年に発掘調査された香川三線遺跡、香川6遺跡の様子を町民に伝えるため、調査補助員の方が中心となり、全て発掘現場から調達した土やかまど、炉の焦土など現場で手作りされ町民に公開されたものです。

香川三線遺跡、香川6遺跡は千年ほど前の擦門時代の集落で、今はもうありません。

この2つの遺跡の発掘調査について、わかりやすく書かれた書籍「苦前町のむかしむかしー擦文文化を探るー」が郷土資料館、苦前町公民館で販売されております。

⑬ 苦前漁港(ダブルデッキ・進化する漁港)

苦前漁港はマリナビジョンのモデル地域となっていることから、当初の姿とは変化し漁港が大きくなり、岸壁に屋根が付いたりなど、漁業者が利用しやすく変貌を遂げている。

また、地域交流の場として港の北側にはダブルデッキや未来港公園も設置され、イベントが開催されるなど活用されている。

※マリナビジョン21とは

北海道が我が国の水産食料供給基地として地域の資源を活かしながら、多様な主体の連携・協働により活力ある水産業や漁村の実現を図るため、概ね10年後を通過点としてその先の目指すべき姿を定めた長期的構想のこと。

⑭ 小田観螢とその関連資料

小田観螢 氏(本名・哲弥 明治19年—昭和48年)は明治37年に古丹別第4簡易教育所(後の九重小学校)へ代用教員として赴任しました。北海道歌壇の重鎮で歌誌「新墾(にいはいり)」を主宰し、本町にも多くの門下生を輩出しており、道内の門下生などにより小田氏の功績を偲び、小田観螢歌碑巡りなども行われています。

また、古丹別中学校、九重小学校、苫前商業高校の校歌等も作詞しており、古丹別中学校校歌については、直筆原稿が古丹別中学校に保存されています。

短歌の歌碑は公民館の外、自筆の短冊が公民館内に展示されています。

歌碑に書かれている短歌「こぞり来て此処にいどみし斧と鍬 幾世の空は深く素蒼し」は、この地域の開拓精神を詠ったものであり、小田観螢 氏は苫前町に深く関わりを持った人物で、これらの関連資料は非常に貴重なものであります。

⑮ 木造十一面観音立像

この十一面観音立像は、鎌倉時代前期、南都(奈良)系仏師の善円などの善派の作風と確認されました。

明治23年頃に京都から伝来し、苫前町最古の寺院である金宝院に宝蔵されましたが、廃寺のため平成8年、苫前町に寄贈されました。

本立像の保存状態は良好で、天冠及び飾り一式についても北海道有形文化財に指定されています。

この十一面観音立像のレントゲン写真、CT写真も撮影されており、その写真には観音像の中に「何か」が写っており、「銘文」が記載されている可能性があります。

※銘文：仏像・仏具などを作製するに当たって、そのある部分に墨書したり彫刻したりする文章。常時公開はしていません。

⑯ 苫前神社の灯籠(栖原店奉納：こま犬)

苫前神社は文献「郷土の調」によると天明6年(1786)に白志泊(現：三豊)に社殿を建造したのが苫前神社の始まりとしているが、文化元年(1804)に苫前場所の請負人であった栖原氏が創建した弁天社が最初のものである。その後、その祠が破損したため、文化9年(1813)に支配人山田福松氏によって再建された。

この灯籠は文政6年(1823)8月に栖原店から奉納されたもので、苫前町の歴史を解明するうえで、極めて貴重なものとなっております。

また、こま犬は、文久4年(1864)3月に当時の運上屋・栖原店の支配人である須田伊助から奉納されたもので、苫前神社の灯籠と同様に極めて貴重なものとなっております。

⑰ 苫前町の風車群(上平グリーンヒルウィンドファーム・風来望)

北海道内でも屈指の風処で風と共に生きてきた苫前ですが、やっかいなものだった強風を逆手に取り、上平地区の上平共同利用模範牧場内で民間企業2社の参入により日本初の集合型大規模風力発電施設(ウィンドファーム)が建設されました。

農業生産基地としての牧場機能を失わず、環境にやさしい自然再生可能エネルギーを

利用した風力発電事業を通して、牛や馬が放された牧場とクリーンエネルギーの共存を実現し、風力発電情報発信基地の役割を担っています。

ここで発電される電力は一般的な標準世帯の約3万1千世帯分の消費電力が発電されています。牧場内の風車群は壮大で国道232号線を走る車やバイク・自転車等から降りて写真撮影する場面を今でもよく見かけます。

また、「とままえ夕陽ヶ丘ウィンドファーム・風来望」は地方自治体自らが環境にやさしい自然再生可能エネルギーとしての風力を活かすため、平成10年から3年かけ3基発電量2200kwの町営風力発電所が完成、現在も稼働しており、近くの海水浴場との景観が素晴らしいと評価を得ています。

なお、現在、本町の風力発電機は、20年が経過し順次立替えが予定されています。

⑱ とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ

とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチは苫前町が進める大型地域プロジェクト「シーフロントパークとままえ整備事業」の一つとして整備されたものであり、他町村の海水浴場との差別化を図るため、中国海南島から白い砂1,000m³メートルを2千万円をかけ輸入し、夕日に映える白い砂はピンク色に染まり幻想的な雰囲気醸し出し、ロマンチック海水浴場として人気があります。

⑲ 苫前町の祭(古丹別・苫前ふるさと祭り、苫前町凧あげ大会)

古丹別ふるさと祭りは毎年8月14日に開催、平成30年度で42回目となり、苫前ふるさと祭りも平成30年度で36回目となるイベントで、ちょうどお盆にあたることから多くの地元出身者がその家族と共にふるさとに帰ってくるため、地域住民はもとよりふるさとに帰って来た人たちとその親族が来場し、会場に出店されている飲食物を楽しみながら、イベントやゲーム、盆踊りを通して、みんなの憩いの場となり親睦と交流を図っている。

また、毎年2月に開催される北海道凧あげ大会は平成30年度で全道大会としては第27回であるが、町内大会としては46回となる歴史的な大会である。この大会は冬の厄介者となっていた強風を逆手に取り、手づくりの凧であれば誰でも参加することができる大会として多くの参加を得ている。凧あげのほかステージイベントや抽選会などの催しのほか、まちの特産品の販売等も行われ町内外から多く来場されている。

⑳ 古丹別緑ヶ丘公園(桜・さくらまつり・スキー場からの景色)

昭和45年に設置された古丹別緑ヶ丘公園は、エゾヤマザクラ、ソメイヨシノ、ツツジなど合わせて約1000本が植樹されており、5月上旬に開催される緑ヶ丘公園さくらまつりには、多くの方が来場し花といっしょにジンギスカンを楽しんでいます。

また、スイセン、チューリップ、藤など季節ごとの草花が咲き乱れ、管理も行き届いており花と緑の公園として楽しませています。

近くにはスキー場もあり、そこからは古丹別市街が一望でき、ビューポイントとなっています。

㉑ 苫前町の夕日(下町の坂、眉島と夕日・とままえ温泉ふわっと等)

苫前町は海岸線に面していることや遠くに天売島、焼尻島そして時には利尻富士を見ることができるところとして、絶好の夕日のビューポイントが点在しています。

上平地区にはローソク岩や上平ウィンドファーム、夫婦愛の鐘が、苫前地区では苫前神社付近、とままえ温泉ふわっと付近、とままえ夕陽ヶ丘オートキャンプ場・ホワイトビーチ付近など多くの地点ですばらしい夕日を見ることができます。

㉒ 霧立峠

1年を通して四季折々の綺麗な景色を見ることができます。頂上の方へ行くと街を見下ろすこともでき、途中にある川やたまに見ることができるウサギやタヌキの姿など自然を満喫できる田舎ならではの風景は、地元の人からすれば何でもない当たり前の風景かもしれませんが、それこそがとても貴重な「苫前町の宝」です。

㉓ 苫前町の歴史的建造物(農協倉庫群、三溪ダム、旧役場庁舎、八線沢ダム)

苫前町農業協同組合の農業倉庫群は、昭和8年10月に古丹別の現在地に1号農業倉庫として建設され、昭和9年10月は苫前に2号農業用倉庫が建設、昭和16年12月に3号倉庫(現生産資材店舗)、昭和33年9月に5号農業倉庫、昭和40年10月に10号農業倉庫が完成した。いずれも物流の拠点であった国鉄羽幌線苫前駅、古丹別駅に隣接して建造された。これらレンガ造りの倉庫群は北海道遺産候補にも挙げられた。

三溪ダムは、戦後の食料増産に伴う水不足により昭和29年1月にダム建設を決定。マルシメ沢川を締め切り、補水区域を含め約646haのかんがい面積を支配し、当時でも珍しい重力式コンクリートダムで昭和31年から構造され、堤高17.0m、堤長77.0m堤体体積6,849m³で昭和34年11月に完成した。完成後は部分的な補修は行っているが本体は強固な状態で、現在も基幹的農業水利施設として重要な存在である。当時の建設技術の素晴らしさに加え、日常メンテナンスが地域の農家とともに歩んできた三溪ダムの長寿命化のキーワードになっており、建造後55年となる。

旧役場庁舎は、昭和3年に木造モルタル平屋建で、総建坪163.5坪で建築され、昭和56年に現在の位置に役場庁舎が新築されたことに伴い、旧役場庁舎を改修し、昭和59年に苫前町郷土資料館としてオープン。内装外装は改修しているものの、町長室や電灯など旧役場庁舎の内観・外観を残している。

八線沢ダムは、昭和22年従来、古丹別川支流ペンケセトシナイ川から取水して長島川北地区の水田用水は森林伐採や沢地帯の開発で水不足となり、これを解消するため八線沢川を締め切り、昭和35年から築造され昭和38年に完成した。ロックフィルダム形式で堤高6.7m、堤長95.0m、総貯水量1,780m³で規模の小さいダムである。

森林におおわれ清水が流れ込むこのダムは透明度も高く景観も素晴らしい。なお、現在も農業ダムとして利用されているためお盆過ぎには落水される。

なお、このダムは農業用施設としての管理が必要なため、一般の方の立入をお断りしており、立入には土地改良区の許可が必要となります。

⑭ 苫前町の歴史書籍（郷土史「郷土の調」・ふるさと散歩・ふるさと歴史マップ・昭和30年代の街並み地図）

郷土史「郷土の調」は昭和9年12月1日よりよい郷土建設のための郷土教育を進めるための教材として当時の苫前尋常小学校長であった佐藤懋氏が編集人となり、昼夜を問わず教職員一丸となって発刊したものである。この「郷土の調」が後の「苫前町史」発刊の重要な資料としても活用されたものであり、本町の歴史を紐解くうえで欠かすことのできない一級品の郷土史である。

「苫前ふるさと散歩」は苫前町郷土史研究会制作の書籍でこれまで2冊発行されている。まちにゆかりのある人が著者として町の歴史について様々な視点から描かれており、本町の特色ある話題や忘れてはならない話など数多く収録されている。

「ふるさと歴史マップ」は苫前町郷土史研究会で作成したもので、苫前町の歴史を年表と地図にし町内の史跡などを紹介しています。

手書きにより作成され、表紙には上平地区にあるローソク岩が描かれるなど、味わい深い地図で、郷土資料館ほかで配布されています。

昭和30年代の街並み地図も苫前町郷土史研究会を中心に町民の方々のご協力により平成21～22年にかけて作成作業を進め完成されたものです。

苫前町における昭和30年代当時の資料については、古い建造物の取り壊しや入れ替わりにより資料が散逸しており確認する資料がほとんどないため、会員の記憶をたどりながら作業が進められ、パソコンを使用せず、手書きにより作成された事もあり多くの時間を費やしました。

⑮ とままえ潮風うどん

苫前町農業協同組合オリジナル商品の「とままえ潮風うどん」はとままえ産小麦「春よ恋」を使用し、最北の手延べ麺の里である下川町「田畑製麺」で製麺し、塩は宗谷海峡からの100%自然塩「宗谷の塩」、油は滝川市の中野ふぁ～むの菜種から搾った「菜種油」を使用するなど、全てに道産食材により食品添加物を一切使わずほとんどが手作業というこだわりの手延べうどんです。

パッケージも地元苫前商業高等学校生徒がデザインしたものが使われています。

この商品は苫前町農業協同組合オリーブ店もしくはインターネットで購入することができます。

⑯ 苫前産のもの、苫前産という言葉

地元の漁師、農家、酪農家が胸を張って言いたいのは苫前産で安全安心なものを水揚げ、生産していることです。

自然環境と共生・共存しながら、消費者に少しでも品質のよいものをお届けするべく管理している私たち生産者が一番自慢できるものが「苫前産」という言葉であるため、苫前町の宝としてふさわしいものです。

㉗ 熊のモニュメント「とままえだべアー」

昭和50年代後半から全国各地で一村一品活動が盛り上がった時代に作られたモニュメントである。本町においても様々な一村一品運動の掘り起こしに官と民が知恵を絞った時代であるが、そこで凄惨な事件であった「三毛別熊事件」を逆手にとって言葉に表せないほどの悲惨な事件を通してまちを発展させることが、犠牲になられた方々に対する供養にもなると信じ、まちおこしを決断したものである。

折しも熊嵐の映画化や資料館の熊展示コーナー、北海太郎の捕獲、郷土芸能くま獅子舞の文化財指定など大きな話題となっていたことも要因の1つである。

㉘ 長泉寺の藤の樹

長泉寺は明治17年に泉靈健が力屋村に真宗大谷派の説教場を開設したのが本寺院の始まりである。明治31年11月に寺号公称の認可を得て、真宗高德山長泉寺と称するようになった。

長泉寺の藤の樹は1本が樹齢80年以上のものもあるということで、第3代目の住職であった春国敢氏が植えたもので、2本の枝から伸びて現在まで成長しているもので、春には見事な花を咲かせており、地域の住民らの目を楽しませている。